

後藤弘子先生 略歴

後藤弘子先生 略歴

- 一九五八年一月一日 福島県に生まれる
- 一九七七年三月 広島女学院高等学校卒業
- 一九七七年四月 慶應義塾大学法学部法律学科入学
- 一九八一年三月 慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- 一九八一年四月 慶應義塾大学大学院法学専攻修士課程入学
- 一九八四年三月 慶應義塾大学大学院法学専攻修士課程修了(法学修士)
- 一九八四年四月 慶應義塾大学大学院法学専攻博士課程入学
- 一九八七年三月 慶應義塾大学大学院法学専攻博士課程単位取得退学
- 一九八七年四月 慶應義塾大学大学院法学専攻博士課程単位取得退学
- 一九八七年九月 聖母女子短期大学看護学科非常勤講師(一九八一年三月)
- 一九八八年一月 聖母女子短期大学家政学部児童学科非常勤講師(一九八九年三月)
- 一九八九年四月 富士短期大学経営学科兼任講師(一九九三年九月)
- 一九九一年四月 立教大学法学部助手(一九九三年三月)
- 一九九一年四月 明治学院大学法学部非常勤講師(一九九三年三月)
- 一九九三年四月 立教大学法学部非常勤講師(一九九〇年三月)
- 一九九三年四月 国際日本文化研究センター共同研究員(一九九六年三月)
- 一九九三年一月 富士短期大学経営学科専任講師(一九九六年三月)
- 一九九六年四月 富士短期大学経営学科助教授(一九九〇年三月)
- 一九九七年四月 千葉大学普通教育非常勤講師(一九九八年三月)
- 二〇〇二年四月 東京富士大学経営学部助教授(二〇〇四年三月)
- 二〇〇四年四月 千葉大学大学院専門法務研究科教授(二〇一七年三月)

- 二〇〇四年一〇月 慶應義塾大学大学院法務研究科非常勤講師（～二〇二四年三月）  
二〇〇七年八月 University of Washington Law School 客員研究員（～二〇〇八年三月）  
二〇一七年四月 千葉大学大学院社会科学研究院教授に配置換え（～二〇二四年三月まで）  
二〇一八年四月 千葉大学大学院専門法務研究科研究科長（～二〇二〇年三月まで）  
二〇二一年四月 千葉大学大学院社会科学研究院副研究科長・法政経学部副学部長（～二〇二三年三月）  
二〇二四年四月 千葉大学理事・副学長
- （この間、横浜国立大学、立教女学院短期大学、武蔵野女子大学、法政大学、日本大学、放送大学、新潟大学、中央大学、琉球大学等で非常勤講師を務める。）

## 後藤弘子先生 主要著作目録

### I 著書

著書

(単著・編著)

- 『少年犯罪と少年法』編著 明石書店 一九九七年九月  
『法のなかの子どもたち』(ブックレット46) 岩波書店  
一九九八年九月  
『少年非行と子どもたち』編著 明石書店 一九九九年八月
- 『犯罪被害者と少年法 被害者の声を受けとめる司法へ』  
編著 明石書店 二〇〇五年八月  
『ビギナーズ少年法』共編著 成文堂 二〇〇五年一〇月  
(『ビギナーズ少年法(第3版補訂第2版)』共編著 成文堂 二〇二三年五月)
- 『講座ジェンダーと法第三巻暴力からの解放』共編著 日本加除出版 二〇一二年一月  
『少年院教育はどのように行われているか 調査からみえてくるもの』共編著 矯正協会 二〇一三年七月  
『よくわかる少年法 罪を犯したらどうなるの?』監修者 P日P研究所 二〇一六年一月
- 『女性犯罪研究の新たな展開』(岩井宜子先生傘寿・安部哲夫先生古稀記念論文集) 共編著 高学社 二〇二三年五月  
『ジェンダー視点で読み解く重要判例40』共編著 日本加除出版 二〇二三年二月
- (共著)  
『女性犯罪』立花書房 一九八七年一〇月  
『女子非行』開隆堂出版 一九九一年一月  
『現代民事裁判の課題9 医療過誤』新日本法規出版 一九九一年一〇月  
『世界諸国の少年法制』成文堂 一九九四年一月  
『児童の権利条約 その内容・課題と対応』一粒社 一九九五年五月  
『International Handbook on Juvenile Justice』Greenwood Press 一九九六年六月  
『現代女性学の探求』双文社 一九九六年四月  
『子どものいじめ―対応と対策』双文社 一九九七年四月  
『児童虐待とその対策―実態調査を踏まえて』多賀出版 一九九八年二月  
『少年司法と適正手続』成文堂 一九九八年二月  
『刑事政策』青林書院 一九九八年四月  
『医療と子どもの人権』(子どもの人権双書四卷) 明石書

店 一九九八年八月

『日本の犯罪8』東京大学出版会 一九九八年九月

『現代の少年と少年法』明石書店 一九九九年九月

『児童虐待その援助と法制度』エディケーション 二〇〇〇年十二月

『児童虐待防止法―わが国の法的課題と各国の対応策』尚学社 二〇〇一年三月

『DV―女性たちのSOS』ぎょうせい 二〇〇二年七月

『小児看護―小児看護概論・小児保健』（新体系看護学二八巻）メヂカルフレンド社 二〇〇三年三月

『ケイスメソッド刑法総論』不磨書房 二〇〇三年三月

『ケイスメソッド刑法各論』不磨書房 二〇〇三年三月

『実務ジェンダー法講義』民法研究会 二〇〇七年九月

『レクチャージェンダー法』法律文化社 二〇一二年三月

『ハームリダクションとは何か 薬物問題に対する、あるひとつの社会的選択』中外医学社 二〇一七年八月

『シリーズ刑事司法を考える第四巻犯罪被害者と刑事司法』岩波書店 二〇一七年九月

『治療的司法の実践 更生を見据えた刑事弁護のために』第一法規 二〇一八年一〇月

『ストーキングの現状と対策』成文堂 二〇一九年四月

『社会のなかの「少年院」』作品社 二〇一九年一月

『学問の自由が危ない―日本学術会議問題の深層』晶文社 二〇二一年一月

『レクチャージェンダー法（第2版）』法律文化社 二〇二一年五月

『ジェンダー辞典』丸善出版 二〇二四年一月

『女性の政治参画をどう進めるか』日本学術協力財団 二〇二四年二月

## II 論文

「虞犯少年に関する一考察―女子虞犯少年の実態調査をふまえて」鹿應義塾大学大学院法学研究科論文集二五号（一九八七年三月）

「少年犯罪と国民意識―特に『万引』事犯を中心として」共著 法律のひろば四一卷一号（一九八八年一月）

「児童の権利条約―少年司法の見地から―」子どもと家庭二七巻二二号（一九九一年二月）

「家庭裁判所が果たすべき役割に関する弁護士の意識」犯罪社会学研究一八号（一九九三年一〇月）

「女性犯罪―わが国における四半世紀の推移からみたその特性と対策―」共著 犯罪と非行一〇〇号（一九九四年五月）

「医療における子どもの権利―児童の権利に関する条約の意味するもの」日本小児看護研究学会誌七号（一九九五年二月）

「妊娠・出産と女性の自己決定権」早川聞多・森岡正博編

- 『現代生命論研究 日文研叢書9』国際日本文化研究センター(一九九六年一月)
- 「少年保護観察の現状と問題点」法学セミナー五一七号(一九九八年一月)
- 「少年法改正何が議論されているのか」世界六四六号(一九九八年三月)
- 「少年犯罪の「厳罰化」論と少年法改正」法律時報七〇巻八号(一九九八年六月)
- 「家庭裁判所と少年法―少年法の50年を振り返る」犯罪と非行一一九号(一九九九年三月)
- 「推知報道は社会の利益 事件から教訓を学び再発を防ぐには、正確な情報の提供が不可欠」新聞研究五七七号(一九九九年八月)
- 「単一性の神話」三田評論一〇一七号(一九九九年一〇月)
- 「女性犯罪」法学セミナー五三九号(一九九九年一〇月)
- 「少年法の理念と社会感情」新倉修・横山実編『少年法の展望』(渾登俊雄先生古稀祝賀論文集)(二〇〇〇年三月)
- 「草加事件」を考える―民事最高裁 判決を契機として」現代刑事法二巻五号(二〇〇〇年四月)
- 「ドメスティック・バイオレンスとその刑事的対応」警察学論集五三巻四号(二〇〇〇年四月)
- 「少年法の現在 「非行少年」を消滅させてよいのか(検証・少年法)」三田評論一〇五一号(二〇〇〇年六月)
- 「児童虐待防止法の成立とその課題」現代刑事法二巻一〇号(二〇〇〇年一〇月)
- 「法と生物学の対話」生物科学五三巻一号(二〇〇一年七月)
- 「刑事処分の範囲の拡大とその課題」ジュリスト一一九五号(二〇〇一年一〇月)
- 「日本の少年法研究の動向―改正少年法の成立と今後の課題」犯罪社会学研究二六号(二〇〇一年一〇月)
- 「配偶者暴力防止法の成立とその問題点―私的な領域における暴力と刑事規制」現代刑事法三巻一〇号(二〇〇一年一月)
- 「少年の矯正教育を考える」こころの科学一〇二号(二〇〇二年三月)
- 「ドメスティック・バイオレンス―合意領域における「いのち」をめぐる権力関係を考える」生命倫理一三三号(二〇〇二年九月)
- 「ジェンダーと刑事法の邂逅―刑事法の再構築の可能性」現代刑事法五巻三三号(二〇〇三年二月)
- 「少年事件被害者に対する家庭裁判所の責任」廣瀬健二・多田辰也編『田宮裕博士追悼論集下巻』(二〇〇三年三月)
- 「変容する刑事規制と刑事法学の課題―「国民の期待」と刑事政策」刑法雑誌四三巻一号(二〇〇三年七月)
- 「被害者が犯罪者になる!? 出会い系サイト規制法の問題点」女たちの21世紀三六号(二〇〇三年一月)
- 「出会い系サイト規制法について―インターネット上の子

どものコミュニケーション規制」現代刑事法六卷一号（二〇〇四年一月）

「非行少年という子ども―2つの15歳逆送事件に関連して」ジュリスト一二六三号（二〇〇四年三月）

「けなげ」な子どもと児童虐待」青少年問題五一巻三号（二〇〇四年三月）

「ジェンダーと刑事法」刑法雑誌四三巻三号（二〇〇四年三月）

「少年非行と親の「責任」―少年法の視点から考える」法律時報七六巻八号（二〇〇四年七月）

「児童虐待防止法の改正とその問題点」現代刑事法五巻一〇号（二〇〇四年九月）

「私的空間における犯罪者化予防」被害者学研究一五号（二〇〇五年三月）

「刑事未成年に対する法的対応」刑法雑誌四四巻三号（二〇〇五年四月）

「ストーカー」法学教室二九六号（二〇〇五年五月）

「The Children as Victims: Domestic Violence and Child Abuse」千葉大学法学論集二〇巻一号（二〇〇五年七月）

「保護観察の現状と課題」犯罪と非行一四五号（二〇〇五年九月）

「犯罪者の処遇と再犯防止への取組み」都市問題四六巻一〇号（二〇〇五年一〇月）

「子どものセクシュアリティに対する刑事規制」『21世紀

における刑事規制のゆくえ 中谷瑾子先生傘寿祝賀』（二〇〇六年二月）

「3つの壁の物語―最近の少年事件をめぐる」青少年問題五三巻二号（二〇〇六年二月）

「ジェンダーと法曹養成教育―日本における現状と課題」ジェンダーと法四号（二〇〇七年一月）

「犯罪被害者にとって朗報となるのか―「犯罪被害者権利利益保護法案」の問題点」法学セミナー五二巻七号（二〇〇七年七月）

「生活の安定」から「再犯の防止」へ―新しい時代の保護観察を考える」罪と罰四四巻四号（二〇〇七年九月）

「福祉施設としての刑務所―国の社会復帰支援義務を考える」法律時報八〇巻九号（二〇〇八年八月）

「少年審判と被害者参加」法学セミナー五三巻九号（二〇〇八年九月）

「少年犯罪の被害者」被害者学研究一九号（二〇〇九年三月）

「被害者参加裁判と刑事司法―刑事裁判の私化をどう防ぐのか」法律時報八一巻四号（二〇〇九年四月）

「最高裁痴漢無罪判決―供述の信用性の判断基準をめぐる」法学セミナー五四巻八号（二〇〇九年八月）

「アメリカ臨床法学教員のネットワーク―アメリカ法科大学院協会大会・臨床法学大会・地域臨床法学集会比较して」臨床法学セミナー七号（二〇〇九年九月）

- 「神戸連続児童殺傷事件」法学教室三五一号（二〇〇九年  
二月）
- 「少年法の理念と少年院法改正」刑政一二一卷六号（二〇  
一〇年六月）
- 「児童ポルノ規制をどう考えるか」法学セミナー五五巻一  
号（二〇一〇年一月）
- 「大震災とジェンダー」ジェンダーと法八号（二〇一一年  
一月）
- 「ファミリリー・バイオレンス——新たな制裁のあり方をめ  
ざして」刑法雑誌五〇巻三号（二〇一一年三月）
- 「非行少年に対する処遇 アメリカの最近の動きと日本へ  
の示唆」ケース研究三〇九号（二〇一一年一月）
- 「女性に対する暴力は差別の表れである 国際人権法から  
みた女性に対する暴力」法律時報八四巻五号（二〇一二年  
五月）
- 「長崎ストーカー殺人事件 DVへの認識不足が招いた悲  
劇」世界八三〇号（二〇一二年五月）
- 「薬物乱用をどう防止するのか…危害最小化原理導入の必  
要性」犯罪と非行一七五号（二〇一三年三月）
- 「絶望の共有からの出発—フロアとのやり取りに触発され  
て—」学術の動向一八巻五号（二〇一三年五月）
- 「国会事故調 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会  
が提案したもの—民主主義社会をどう作っていくのか—」  
学術の動向一八巻八号（二〇一三年八月）
- 「児童ポルノの効果的な規制のために」世界八四六号（二  
〇一三年八月）
- 「少年法一部改正法・少年院法・少年鑑別所法」法学教室  
四一二号（二〇一五年一月）
- 「成人年齢の引下げ」法学教室四二三号（二〇一五年二  
月）
- 「少年院法改正と少年の健全育成」刑法雑誌五五巻三号  
（二〇一六年五月）
- 「犯罪とジェンダー—女性犯罪者の立ち直りの困難—こ  
ろの科学一八七号（二〇一六年五月）
- 「少年司法と治療的司法」季刊刑事弁護八七号（二〇一六  
年七月）
- 「刑法改正とジェンダー平等」ジェンダー法研究四号  
（二〇一七年二月）
- 「少年の健全育成と年齢の引下げ」千葉大学大学院人文公  
共学府研究プロジェクト報告書三二三号（二〇一八年二  
月）
- 「『犯行時少年の死刑執行』が投げかけるもの」世界九〇  
五号（二〇一八年三月）
- 「性犯罪規定の意味するもの」現代思想四六巻一一号（二  
〇一八年七月）
- 「死刑とジェンダー」Criminfo [https://www.criminfo.  
jp/wp-content/uploads/2019/10/08.pdf](https://www.criminfo.jp/wp-content/uploads/2019/10/08.pdf)（二〇一九年一〇  
月）

「韓国に学ぶ刑務所受刑者と子どもの支援」「子どもにやさしい家族面会室」を訪ねて」刑政二二二巻四号（二〇二〇年四月）

「子どもの育ちと親の刑務所収容 子どもの権利から考える」助産雑誌七四巻六号（二〇二〇年六月）

「RBGと男女平等と臨床教育」法曹養成と臨床教育一三三号（二〇二〇年十一月）

「日本学術会議の提言の意義 提言「同意の有無」を中核に置く刑法改正に向けて 性暴力に対する国際人権基準の反映をめぐって」ジェンダー法研究七号（二〇二〇年十一月）

「実名報道と少年法改正」論究ジュリスト三七号（二〇二一年一月）

「『あるべき法規範』とサイエンス―少年法改正と刑法性犯罪規定改正をめぐって」司法精神医学一九巻一号（二〇二二年一月）

「合理的人間像という亡霊を超えて」被害者学研究三一三三号（二〇二二年三月）

「特定少年という少年―少年法改正と社会の責任」三田評論一二六五号（二〇二二年四月）

「ジェンダーの『レンズ』で女性犯罪者を見る―「困りごと」を減らしていくために」更生保護七三巻七号（二〇二二年七月）

「学校における性暴力被害を考える」子育て支援と心理臨

床二二号（二〇二二年九月）

「千葉市教育委員会の挑戦」教職研修六〇一号（二〇二二年九月）

「刑事法とジェンダー―なぜ刑事司法は女性の正義の実現を妨げるのか」法と心理二三巻一号（二〇二三年一〇月）

「ジェンダー法学の二〇二〇年 安心安全な場から一歩を踏み出す勇気を」ジェンダーと法二〇号（二〇二三年十一月）

「市民運動と刑法改正―被害当事者と市民社会と政治家の連携」ジェンダー法研究一〇号（二〇二三年十二月）

『京アニ事件と甲府事件 ふたつの死刑判決が問うもの』世界九八〇号（二〇二四年四月）

### III 学界回顧

「一九九八年学界回顧刑事政策」法律時報七〇巻一三三号（一九九八年十二月）

「一九九九年学界回顧刑事政策」法律時報七一巻一三三号（一九九九年十二月）

「二〇〇〇年学界回顧刑事政策」法律時報七二巻一三三号（二〇〇〇年十二月）

### IV 座談会

「少年法改正（上）（下）―法制審議会答申をめぐって」

- ジュリスト一一五二号・一一五三号（一九九九年三月）
- 「少年法と教育学の対話 鼎談・少年の健全育成」法学教室三〇〇号（二〇〇五年九月）
- 「座談会「改正配偶者暴力防止法に期待することと今後の課題」を語る」共同参画21三二号（二〇〇七年九月）
- 「座談会 現状と展望 人文・社会科学のための男女共同参画推進」学術の動向二一卷一〇号（二〇一六年一〇月）
- 「成年」を考える」法学教室四六三号（二〇一九年四月）

## V 判例評釈

- 「差戻し後の再度の観護措置決定の可否」平成六年重要判例解説（一九九五年六月）
- 「鉗子遺留・急性脾臓炎事件」医療過誤判例百選（第二版）（一九九六年五月）
- 「犯罪事実と虞犯事実の関係」少年法判例百選（一九九八年五月）
- 「保護処分に対する抗告提起期間内に抗告について裁判することの適否」現代刑事法一卷四号（一九九九年八月）
- 「少年事件と自白の信用性―草加事件損害賠償請求事件」平成一二年重要解説（二〇〇〇年六月）
- 「一三歳少年による放火事件（新潟地裁長岡支部平成15・6・17決定）」季刊教育法一四六号（二〇〇五年九月）